

滑魯  
繪入

一盃  
奇言

式亭三馬作  
歌川豊國画

下



遠13  
872  
2







コウく。あんふま<sup>こま</sup>子<sup>ご</sup>せ<sup>せ</sup>。う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ソレ。瀬<sup>せ</sup>  
の川<sup>が</sup>へ<sup>へ</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>て。海<sup>え</sup>老<sup>い</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>扇<sup>あふだ</sup>や<sup>や</sup>で<sup>で</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>す</sup>  
う<sup>う</sup>く。コウあ<sup>あ</sup>め<sup>め</sup>へ<sup>へ</sup>その<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>び<sup>び</sup>ね<sup>ね</sup>へ。トキニ<sup>ニ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>  
ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>ね<sup>ね</sup>よう<sup>う</sup>▲コレ<sup>レ</sup>サ<sup>サ</sup>く<sup>く</sup>ち<sup>ち</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>盃<sup>さかん</sup>と<sup>と</sup>涙<sup>なみ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>じ<sup>じ</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>づ<sup>づ</sup>せ<sup>せ</sup>ま<sup>ま</sup>づ<sup>づ</sup>め<sup>め</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>ね<sup>ね</sup>か<sup>か</sup>を<sup>を</sup>。ヲト<sup>ト</sup>こ<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>が<sup>が</sup>れ<sup>れ</sup>ん  
ぶ<sup>ぶ</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>さ<sup>さ</sup>ツ<sup>ツ</sup>ア<sup>ア</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>海<sup>うみ</sup>づ<sup>づ</sup>の<sup>の</sup>級<sup>けんび</sup>差<sup>さ</sup>づ<sup>づ</sup>の<sup>の</sup>コウ<sup>コウ</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ぜ<sup>ぜ</sup>ひ<sup>ひ</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ぜ<sup>ぜ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ソ<sup>ソ</sup>レ。瀬<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>川<sup>が</sup>へ<sup>へ</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>て。ナ  
ソ<sup>ソ</sup>レ<sup>レ</sup>え<sup>え</sup>び<sup>び</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>。あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>を<sup>を</sup>法<sup>ほう</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>か<sup>か</sup>を<sup>を</sup>よ<sup>よ</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>。あ<sup>あ</sup>  
へ<sup>へ</sup>その<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>び<sup>び</sup>ね<sup>ね</sup>へ。大<sup>だい</sup>用<sup>よう</sup>づ<sup>づ</sup>せ<sup>せ</sup>。う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>さん<sup>さん</sup>。

コウその<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>  
▲う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>。う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>コウ<sup>コウ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>瀬<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>川<sup>が</sup>へ<sup>へ</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>。  
え<sup>え</sup>び<sup>び</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>扇<sup>あふだ</sup>や<sup>や</sup>で<sup>で</sup>ソ<sup>ソ</sup>レ▲む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>「あ<sup>あ</sup>め<sup>め</sup>  
その<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>。ド<sup>ド</sup>レ  
の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>め<sup>め</sup>よう<sup>う</sup>▲こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>の</sup>コウ<sup>コウ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>さ<sup>さ</sup>ツ<sup>ツ</sup>コウ<sup>コウ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>▲う<sup>う</sup>よ  
「あ<sup>あ</sup>め<sup>め</sup>へ<sup>へ</sup>その<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>▲ウ<sup>ウ</sup>マ<sup>マ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>この<sup>この</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ツ<sup>ツ</sup>  
す<sup>す</sup>。ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>

う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>ね<sup>ね</sup>よう<sup>う</sup>。

つれふくまのうらな

酒癖

はつりやのませより  
かこりけり引さう  
出これまがらつきの  
田舎のうらな  
あましくゆり  
こころままあひ  
あまがまのこねま  
あまうらまらた

コレく。病也。

病也が田舎一合とら

あままらまがコレ

キハ



二合とらつて

ころころ

そとでお

が一合のん

ぶんナ。ころ

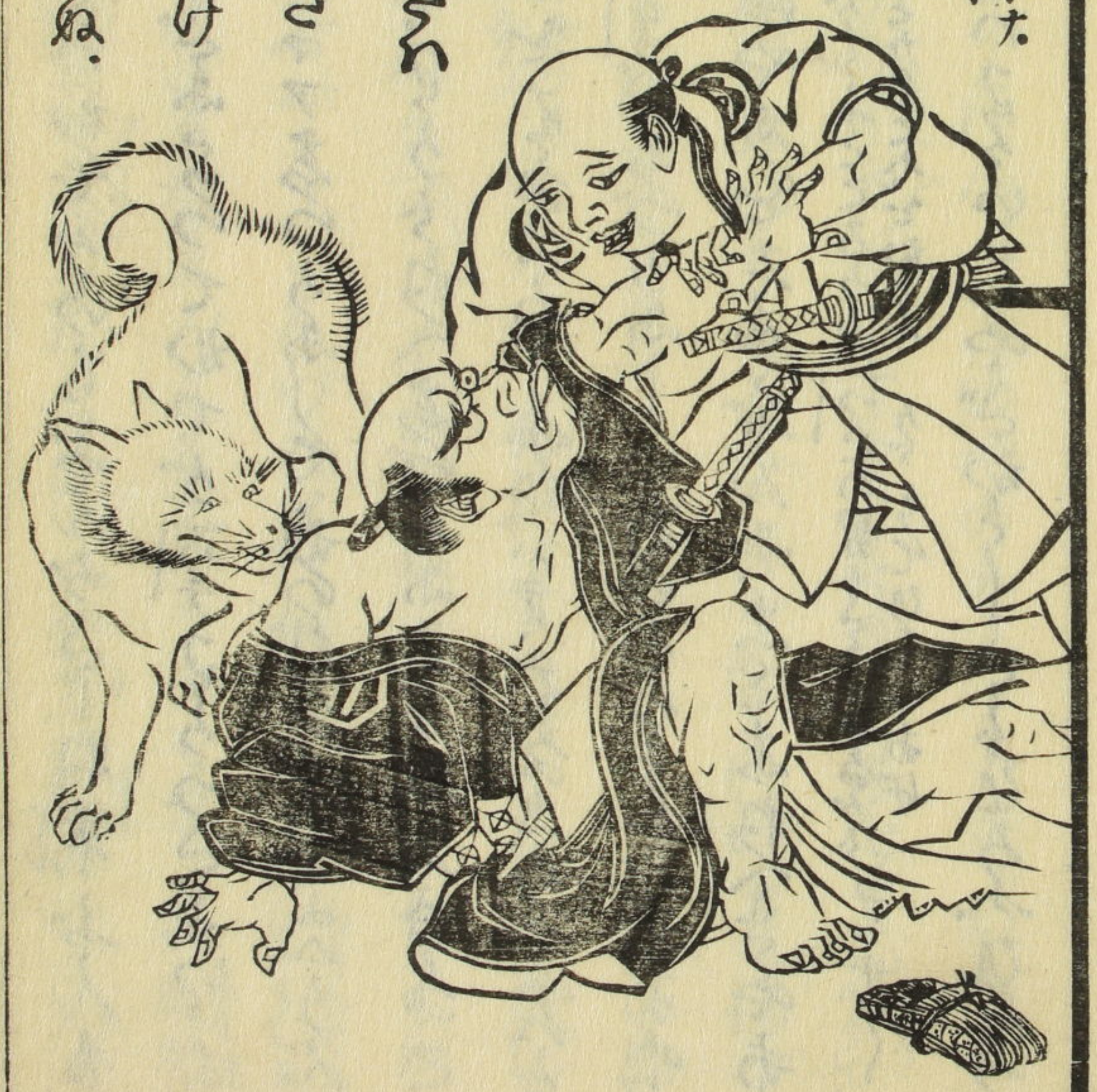
ころ。一合のん

りが。あぜま

あとをりけ。りけ

ひや。ひやま

サ



是のぬ。それでいおでがらちぶんがうぬ。米ぶんも  
 たりぬ。ひなれぶふりておでがハテフらつこよ。ひふ  
 フらつこらうら。マアあらうあしてあのびみせへよ△うん  
 あや。何フらうら。フらうらねへまづりふらぬ。たまここ  
 急とまる。こくそをみさるし中のハテ。をみさるし中のと  
 ひふふ。トめぐ。中づまづりふししてあのむらし中のよ△いや  
 ぶぞろ。あの酒やめをぞんぶんふ。ま。まねへまやあ  
 たるぬ。トひひみぐらやこころうら「つきの男くふうけあがらコンサく  
そまがとをこ入とむとま けそとひらひあげ  
 物とおとしていつるい△いやぶおと〜〜ひらふ。ひらつ

こころちとま。ヤイ酒屋。ヤイ酒やのむんとらうめ。ちんえ  
 てわら。おで。こく。今交。来てどうなるら。ぶんをま。トウラ  
みぐらこあら △あんごこのがきめらひ。何がさらしい。ヤイ。何が  
 さう〜してつらひとる。さうしくびこ〜へ〜。おれらお  
 ひてご。又こおみまむらと コレ可内。まづげまをまし  
 て。ナコレをみさぬら。ヤイをみさぬ。△あぜをみさぬ  
 「たみまとこころぶ△イヤこころづぬ。何。何こころぶ。トむりふをみ  
こころが」そまこころ。かまらうまごころをみさぬ。まま 目  
ぎらう〜まがらちた △可内。まづげら。か身い何のいこんが  
中とはれこまいらま

あつて。あけこ。出いぬけふるあげてまむり。ト引たいまうと  
するまふや  
ふうつくせ かげこのでいあひまらうぐむらうでふころんご  
ふうをうい  
 のご。△うんあや。あまのころりびぬ。トしいあがらまうくとこきて  
そむふんそむ男ふむひ △  
 ヤイそこまわるやつあんごうまひあんごうこれのあんで  
 かせをふる。かれいかまごがこれのあんど。あつあやの  
 ごと。トまひあつぬが。トッロツあつて。ぐるくぐるくまひ  
 ろやろごが。これいむけ物。トサアきりく。ト解をあら  
 いせろ。トひまうくと  
いつてまのく ○又物の人とうと △ごうごんをれ。つよいり。  
 ナア。まひと。いぶあげる。くせふ。あめのい。あんであまを

コロいひと。ごへうせス。コレサげへぶんが。ころのうらまが  
 りよさうり。ゆいよ。△あんのごいぶんころくあひ。ままぬ。  
 まま。ままぬぞ。可内いんないらつらつのまにまのあつぬい。まひま  
 たついんないのあつま。トッあつて。アレく。アレくまつろく。アレ  
 まの可内べんないあまの。あまのまらぬたれど。まらぬの碎さいこ  
 不せえあご。△うんあや。碎さいりぬ。かれい。碎さいのぬぞ。碎さいこと。まつろく  
 あてが。あがふ。コレどいつもまけ。あまの碎さいのぬぞ。碎さいのぬぞ。  
 扱こハ。コレ。んをれ。い通とろく。トは拍子とむとまうと又とまうと 碎さいのぬく。  
 おろや。碎さいやア。後へん。

ひんがしのうしろくま酒癖 さうくせ

目をさしてよろい  
しんがら大層よこ

たてふふとこ  
もふもつくるま

あひい  
たごまり

△にこく  
ひさひ

あが  
ら けん

くうとやめて

酒やめてッたて



ひんがし  
引させまふさげ勢でッゲイけん

あくしやうめふりきごいけん

くうとやめて酒やめてッ??

ごうごうめんめまんご

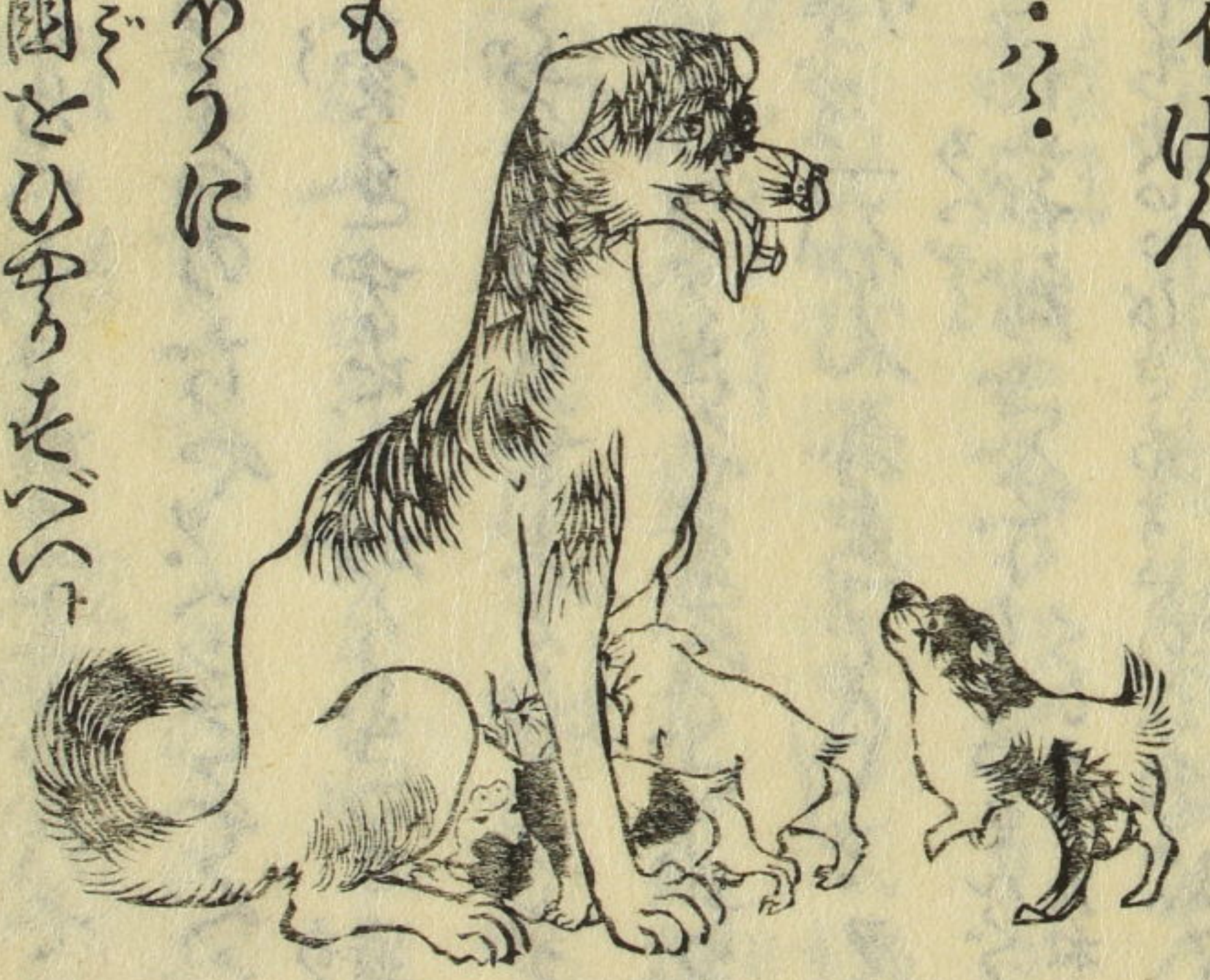
ひんがし 猿桃ごいだて

引させまふさげ勢でッ

さうまくのふせるやあも

くぬくまんごうめつらうに

かりしんこれうらあ園とひやうをへん





びらく、あまきるがらあまきんごの  
 ののまねと一くままがらやく  
 「あめの十ヲお又よ名代でかり  
 ひるさる。おとやげふりちよしののぢやッ、ハシこてへられ  
 ねへ。あめやのさぢさん。ままおたう。がうぎと異い  
 のう。コウロ又くんあ。ライぶつまのりをとるぜ。ソレえんあ  
 四ッ。ナニひとりおまけう。こいつアまたまのりつごア。ちつと  
 あまびふまねへ。トあめとままがら「かんあまきんごッ。ライ西  
 瓜買ふべい。いんご。ハ又う。ライお餅ごせ。トひらつらんがりと  
くひらきたねとまた  
ごくわつと。つごの方に女大の子のちたのつひきあまこの子物よ  
ちとどのませあがら。まごをちくたしてハッ。ハッくとつてあ。とらうご  
 ふち。異い。てあへも不後者ごす。とらうご乳けい出さう。

てあへのの垂乳ごす。指乳あま乳母まもでも能合ふ  
 まらア。とらうご。何。ワン。べら。がうめ。右感あやうご。  
 ニヤンとでもあけびら。ソレ西瓜とやうぶの。とらうごか  
 り。ひらへん。畜せめ。ちつとあまびふまきさるじ。ト。大に  
すすで  
あごさると「系於烏丸本家枇杷葉湯。烏丸本家枇杷  
しそりさる  
ようよう葉湯の義を。毎年四月と旬より。八月下旬まで。葉  
とらう湯ふい。てたひら。一面ふあつ。まひまう。と。ライ枇  
へいこういつちの杷と。一盞くんあ。ライまきり。ありがく。こいつのあつ  
 い。コウひや冷の種へり。こいつと飲う物あま。大汗ご冷が

みくべの糸を空擧てくさろし。登茶のころりきふ  
醬油とさしそりたてへツトのんでファイおろしけ。殊と  
やらうろ。たひら一面があらまひりたといふに上があ  
るうろ。殊へからちやア不願ぶらんぶの。おろしけ。批把びある。  
ちつとおまびふ来さろし。カラクリのヲイ。そま。さのよ  
とりこを油洗ふのままするが。彼名手奉憲后藤初  
階が機園の言初でござる。アイ官版利直義の儲  
が岡造管成統の清枝きりめてきたまきも憚る  
りれば。織まのあじ。内外の瑞籬拜殿廻廊之焼籠不

ゆるまで。お分の体と替りままれば。のころり火が  
灯てまわる。アイそりや。けきもか目かとまよりおま  
まバツ。袖つろくか目おとまら後へ。とろろごりる。  
ア又まがむぶの。ファイこの窓をあけてくんあ。ファイよじ。  
そんとつけへあじ。馬の尻とのぞくやうトのひみか。  
ゆる。とろこる。トとろはらまらてア、がうけららせ。がう  
てたお慶のナア。のぞくよりら中へ遠入て一森入やら  
うてへ。ファイ云云とやらうてくさろし。矢代の  
長者が所蔵がその体り。へんひさのちりよ。ファイ一丈

おくづい。皆へんねへ。菊灯着せ火が灯てまわる  
 まぞご。ライ改。ちつとあまびふ来ねへ。お進を加居る  
 りぬいあるゆへ。その箸ごアお進もあら移へ。アそれ  
 く。それく。トシく。アとんく。ツ。八人蔭の箱入とえ  
 づい。爺さんやそと浮居るぜ。ヘンこそへら進ねへ。爺さ  
 ん。ちつとあまびふ来ねへ。アおれごア。向ふいあんご新  
 肉。新肉まぐづい。ヨ。うまく中る。チヨツ。あゝあゝ声ごせ  
 の親とおれへ。へんごく。いふ由悪病あまど。ツ。いのぞや  
 下の日持の親旦那様や。新道さぬ。ア。何由後生と

おがーめし。手拭の古いのとら。せせりせせり下さりま  
 せや。お旦那さん。ツ。ア。さういふ。さう。猿歩ごが居る  
 中ら。さ。ごう。ご。猿歩。さ。びり。り。う。せ。の。ド。く。び。お。こ。ら  
 う。ぜ。ゴウ。猿歩。松。も。ら。花。菱。の。堀。と。い。ふ。お。ぶ。ご。が。ぬ。い。の  
 字。跡。り。激。来。が。う。め。へ。さ。う。ご。ト。ん。さ。り。や。ろ。う。一。は。又  
 や。ら。べ。い。ト。ひ。ま。の。い。い。み。が。う。や。へ。く。さ。き。△。ト。お。ま。ま。さ。う。へ。い。と。ご。ら。こ。の。み。  
 ま。ご。こ。ろ。ぶ。お。ち。や。ア。移。へ。ツ。サ。ア。猿。歩。ご。一。を。ん。や。つ。て  
 下。つ。い。う。め。へ。こ。ま。る。お。と。す。て。へ。△。け。肉。り。こ。の。い。ま。あ。ま。す。の  
 ヨ。ま。ろ。の。く。様。の。い。ん。ご。せ。ま。せ。猿。歩。ご。し。て。お。く。ご。


らう。ちのら多々花藝者オミダシヤ不出でア。徳歩トクフぶらて我ガ勝シ  
 まりやア。歩アツキ歩アツキねへ正ただのねへス。ライ十二文イニ方カタべい。徳トク  
 歩フとわうさ。け。ちのとあまびアマビみ来キさるト。おれ  
 見えされやあの中ナカりき。あやうしい。花ハナのさサりりの始はじめ  
 の子こちや。年トシへやうく十トウ日ニチ免クハ。親おやへ越こ中の玉たまの物もの人ひと  
せうしやう殺ころ生の報むくひふよつて。あの中ナカりき支し離りふ生せいまます  
 こあまあまりえりえされや。親おやの因いん果ぐがふふむむくふふツツええてや  
 るべべい。ころちの親おやの因いん果ぐがたりむむくくるるべべい。人ひと城しろの  
 けへやや。ややくく。右みぎやの。右みぎやの。ややいい活まき。ああの能なり良よし。

エこのいいげげぶぶららむむうう。活まてまららむむららままききやや。ああままみみんんみみぬぬ  
 ぶぶ勝かつべべののややいい。そそ。ああの能なり良よしもかかんんみみドドややううにに。活まア  
 かんかんねねへ。チチョョツツここむむららうう。縁縁故故でもままくくべべいい。ライライ叔おぢ父ちち  
 活この。ちちのとああままびびみみ来きささるる。トト。多あひむむぎぎめめの  
ひぐらう大叔おぢ兵へい今いま先せん生せい後ごまますす。たたるるハハ三さん國こく志し。岡おか雲うん長ちやう  
きみの聲こゑでで。叔おぢ兵へい今いま先せん生せい後ごまますす。たたるるハハ三さん國こく志し。岡おか雲うん長ちやう  
ごんりん又また破やぶりり。ままででにに。三さん百ひゃくををららりりややううまますす。こことと  
 るる。そそここででめめつつててううららにに。ささややうう活まりりまますす。ここととささるるおおよよ  
 つつてて。かかややうう活まりりまますす。ここととささるるがが。其その勢せい勢せい合あつつささるる千せん  
 二に百ひゃく三さん十じゅう。騎きででここととささるるととトトがが。旗はた小ことと方かた。ささよよここ二に百ひゃく



それでもちよふらさア。女目へ煮て新造とらう。コレ  
 酒落へのけて茶一盞くんる。ナニのつでも只ちよれ  
 こよよ。鉄と出しちやア。る尺ふ合移へ。コレひきつ  
 るてらひのねへのんご。一盞百ちら百ちるべの。務  
 むとらやま。トひとそれ。角がまらからちり。鉄  
 鉄よ。ハテよくつものくえさがり。枇杷茶湯の茶  
 ぐせ。茶でせくちよるまひ中に。茶を煮て鉄とら  
 う。ちか。がちりて。ライのう。のくちや。ナニ  
 りや。よ。イヤがうてちよるまひと。ヤとてひの。コウ茶が

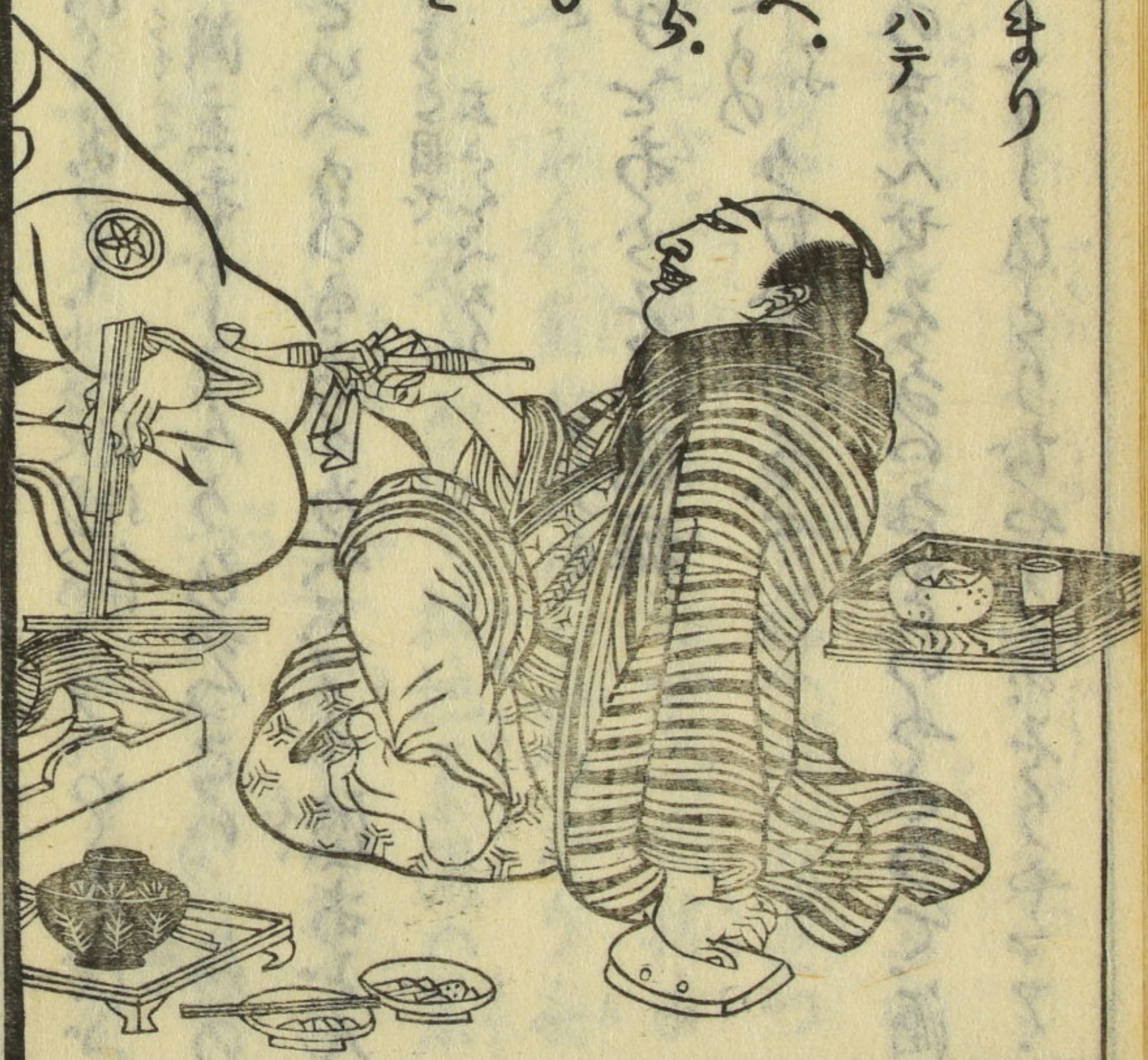
とらりア。ちがひ。ちく。トえておんあをヲ。のききびご。  
 ちひひちのこの波。ちあがらんりひちのつ。何の  
 人とあつちちとひのちもあるゆへス。ライ。婆あどん。  
 やちまら。トよ。目で。ちよるまひ。


 茶湯のちをあらそふ酒癖

●かまぐちのめ  
 ▲にチツ子  
 ちけ合のんご

●イヤくまあのみまんせ。そまのみとららつて。酒  
 とららつて。トットワ。ひとらちやが。そらやマア。

ぐうぐういりいあハテ  
 まあのもみせへ  
 糸の酒とまたら  
 いくらのもんで  
 酔ハ移へせ。あを  
 のむやうみ酒ご  
 りのと。そのえ  
 ぶご。江戸で



三井も買  
 つるごらう。  
 ●みんぞ  
 いふて  
 うるみ。  
 あやうし  
 系能ぢやて



そのいぬ魚い酒いのませんが。あきでもき井が  
きぬわ下のと酒ぢや。▲そきんころ。江戸ぢやア一  
井井百六十の酒いふせうちぢ。あつらがのむ酒の  
三百二十文ぢ。あめへがこの二井と。ころちの一井と  
りけ合ふものぞ。●ヤそりやめつさうぢや。シカシあち  
でもナ。富士見といふころあつらりのみ。▲江戸ッ子が  
ぢやア。せひ富士見さ。シカシ毒へいきておいて。ひまや  
くで汲でよこまあやアあをまるふ。まんごりあふね  
へり。江戸で新酒とのむやうあふもぢ。よること

かめつてもあつぬへのなるぢ。うりでのどろくやの  
砕砕へかつさ。そきんごり。かきぐのころめり。砕  
ことかめつてもぢ。まいたさあつらり。あきとといつこ  
あがつへんに戸へあて。又のをせと酒といふぢ。うり。  
●イヤくそりや。むりぢや。あんのりのといめてもあ  
士えいあつらりのみ。ハテ。能ごのままた。あきあもナ▲ハテ  
きふまの。あつらりのんであつらりのみ。かきぐの  
あつらり。あつらりけあつて。砕ぢ。うり。あんのり  
よ。切ても血の出砕へかつさ。あつらり。あつらりのあもあつら



てへ●あんどりのてりのみ。ありや。富士山とて交る  
さういふ。そこせりよと富士えぢやりのみ。江戸みく  
とりよても江戸子のまごころちや。ハテ歌とある  
が。ありのの歌とある。祿の身が立ぬと。夕暮りの薄  
るりあもりのてある。りのみ▲いりふ歌とある。びつこ  
小便とま葉とある。けりもちあがねへ。かきかきでい  
まおののとりよが。江戸あま麻糸ともいひさるる奴  
が。ま葉と小便と。牛房と小便と。ト云てある  
くりら。かきア又。小便とあるに連とさかまのりと

あつこころ。小便とある。替る中のさ。●ハテそこちやりの  
の。それぢや小よつて物が麻糸ある。りので。真刊が  
あいの。関東のつま小便とある。何とて。あま地い  
たまあがりぢや。途中ぢやるが。謙ぢやるが。連立て  
マア不税ぢやが。あま。あま。江戸元い。他がころい  
▲あんの又。かきかきを連小便が。出まのり。あのり  
が。糸の町とある。く時。十人づれづらけが。一人りか小  
便とある。あとのてあいが。皆一やうとある。に小便たご  
が。福へりら。その近所の。濠へせうとある。さう。近所

合璧の膏たつべきを分くわいが出しゆて来きく。このちやへあのであされ  
ませ。是これへあのであされませと。多くお引ひをうて行い  
て。我が内の小使せおへさせさせ。そせううかまもな  
かどくどりら。礼れいを言いつら。あのか。中ちゆうんまてうの  
の。は旁わうでか礼れい中ちゆうままる。イヤモウかりげで。聖あまの汁じゆうの  
実みが一把いちいも余よ分ぶんありま。マッマアか。ごをこ。みん  
のうのと巻まおし。せ。まうら。つちをん拵あまづうとかも  
つて。書せう隠いんを借かり。こ。の。か家あさん。と。ういふか。アが  
て来きて。ありがこのの八百もいつく。こちの人とかに

戸とさんのと。く。へて。それ。の。音ねと。巻まりの。う。う。能あへ。  
ん。ま。の。上じゆう。床とち。や。さ。う。い。壺ね打うち。ぐ。と。ト。ぐ。も。ち。が。  
ひ。ま。ま。る。マ。ア。葉ちやく。ひ。ら。の。ト。葉ちやを。汲くで。出で。●。あ  
ら。う。い。ん。ま。ま。と。ま。の。み。へ。ケ。タ。レ。が。何なんも。お。あ。り。ぞ  
い。あ。そ。ん。あ。ら。ま。り。ん。せ。江え戸と子この。く。せ。と。い。ふ。こ。う。  
氣きを。う。り。つ。う。う。て。坊ぼが。あ。の。ナ。マ。ア。さ。ふ。て。見みよ。あ。ら。  
底そこの。あ。い。袋ふくろへ。物ものつ。あ。る。や。う。あ。の。の。ち。や。ニ。よ。う。て。上う  
方かたの。ち。り。も。ナ。種いし。あ。の。大だいん。ぢ。や。ら。房ふう。あ。い。を  
會あぢ。や。り。の。▲。あ。ん。の。を。合あ。と。あ。う。も。終しゆうへ。●。イヤ。く

かんせを合ぢやく。扱ふつて物乞のぬぢり  
 ぢや。上方の人あいのさるのみとあいのひ。イヤ又  
 こゝみ内へりのぢやあのが。料理とりふらと上方  
 が上手ぢや▲と手りあらねへが。麩の濃汁とりふ  
 ぶと。白味噌で合せるあひ打ぐぜ。●そりやマア。浪  
 花の芦も併勢の濃煎ぢや。おまへ方が程とあが  
 芝居仍。そまうら。社員で後をめぐらぬるぢ  
 や。源流もども流るやせまのがナ▲茶畑とつてまこ  
 ●サその後まらちやとおのりりる。トットりう。

内と外とのナ。いつりう。遠ふこめんぢやのひ。▲ハテ  
 そりやアめう知をねへ。行なませ。来なませ。おしく。  
 もつこめんご。●女子の洞へ能う覚えての格ぢや  
 が。あまもる。地の女子の洞と。仲居や娼妓の洞へ。  
 そまうらに遠ふてある▲そまへの江戸でも遠ふらら  
 そのちまごさかこがのやつらが生海くといふら  
 どんなぶらとらつて流てらんらつまら移へ●コレ  
 かもがこの中つらといふ。あんの子ぢやひる。江戸のや  
 つらといふら。おまへ後まらをあらうらや▲まねこ

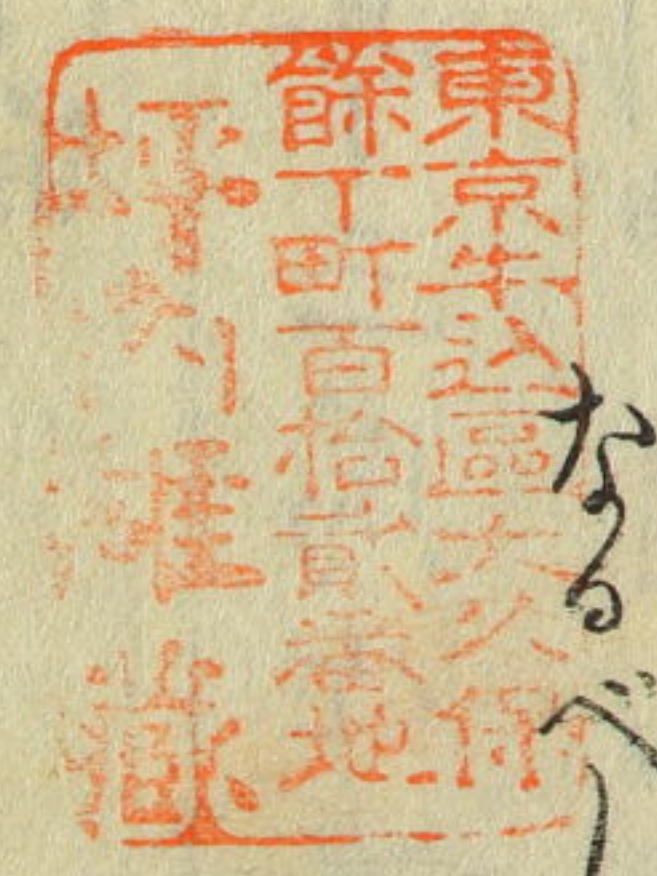
るふよ・そんならかつらをいんまき。すぐるしのりの  
 の▲そんなら上方の手合といわう・手合もあらし  
 いす。何の手合あるものぞやハテ江戸の流といわ  
 うら。おまへも又。かまぐさの流といわうが能わいな。  
 そくて又料理といわう上の生海ナ。丸山の端の  
 寮み▲あつく。そんならいっよ・それおまへ。彼的が  
 能テ▲コウくそんならあつく。江戸の料理  
 家もかぞへてきりさう。マヅ江戸むきを百川東林二  
 丁町小山の二軒茶屋。むろは流るまふ。ア、これく！

世七

能わのあく！そんなら能わと。そりやマア能あしと  
 かわて。是ら何あへるといんら。▲いん・いんと  
 あんのころちやいな。▲いんらといわうら。いんと  
 小のよ・テモあついのぢやア▲そのあをひとら。

●フトころりやマアとつしてつらひさる。  
 △能わのくごくごはき

一盃奇言下之卷 終



明治十六年六月二十日翻刻御届

江戸

戲作者 式亭三馬作  
浮世繪師 歌川豊國画

著者兼  
原版主

出版人

故人  
式亭三馬

東京府平民  
江嶋伊兵衛  
日本橋區通四丁目拾番地

契情買虎之卷 田子一 金魚著

小本貳冊

定價三十五錢  
郵便稅六錢

忠臣藏偏癡氣論 式亭三馬 著作

小本貳冊

定價三十五錢  
郵便稅六錢

珍々堂出版滑稽戲作目錄

道 膝栗毛 十返舎一九作 東海道 同 画十八冊

道 膝栗毛 十返舎一九作 本曾海道廿五冊 同 画奥羽道中十冊

滑稽二日酔 十返舎一九作 貳冊

滑稽六あみだ詣 十返舎一九作 初編貳冊 二編貳冊 三編貳冊

滑稽大師兜 十返舎一九作 三冊

漁録餘史 曲亭馬琴作 壹冊

廓中掃除 同 他 壹冊

傾城怪談客物語 式亭三馬作 壹冊

一 孟 綺 言 武亭寫也 壹冊

忠臣藏編癢氣論 同 他 壹冊

田舎芝居忠臣藏 同 他 初編貳冊 貳編貳冊

狂言田舎探 同 他 貳冊

行麻疹北浮言 同 他 壹冊

廓 蕨 用 同 他 壹冊

辰巳婦言 同 他 壹冊

同 叙頭深板 編 同 他 壹冊

書 宗傳餘師 山東京傳也 壹冊

傾 城 觸 同 他 壹冊

小 紋 雅 話 同 他 壹冊

契情買虎乃卷 同 他 壹冊

新造園彙 同 他 壹冊

手 面 草 同 他 壹冊

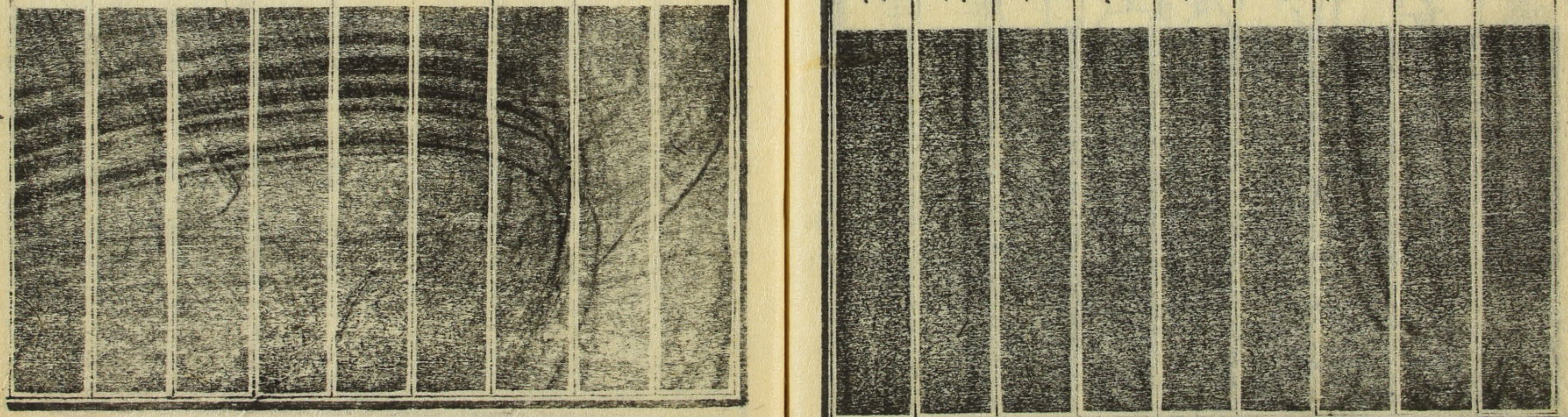
娼妓結ぶ心 同 他 壹冊

志げく平話 同 他 壹冊

夜半お柔積 同 他 壹冊

錦乃重 同 他 壹冊

青標  
の 世界



東京 同

北畠茂兵衛 稻田佐兵衛 山中市兵衛 稻田源吉 小林新兵衛 丸屋善七 小林新造 穴山篤太郎 山中孝之助 山中北郎 博聞社 武田傳右門 牧野吉兵衛 牧野善兵衛 鈴木忠藏 森江佐七

東京 同

江嶋喜兵衛 柳川梅次郎 東生龜次郎 東生鐵五郎 小林喜右門 水野慶二郎 内藤泰次郎 出雲寺萬次郎 石川治兵衛 荒川藤兵衛 辻岡文助 内田彌兵衛 北澤伊八 松崎半造 淺倉久兵衛 岡村庄助 別所平七

志上川莊記

東原信

壹冊

廓社火帳

同作

壹冊

傾城買二筋道

風来山人著

二冊

彙軌本紀

高田金吾著 尾原忠房著

壹冊

自惚鏡

同作

壹冊

娼妃地理技

同作

壹冊

遊子方言

田舎老人作 多田之爺

壹冊

南窓文集

田代金龜

壹冊

浮世物語 舊觀帖

鬼武作 十返舎无校閣

壹冊

東京  
同 大坂  
同 同 同 同 同  
同 西京  
同 尾州名古屋  
同 同 同 同 同  
同 美濃岐阜

青山清吉  
磯部太郎兵衛  
榊原喜兵衛  
松村九兵衛  
前川善兵衛  
前川源七郎  
岡嶋真七  
赤志忠七  
田中治兵衛  
川勝德次郎  
片野東四郎  
河瀨代助  
梶田勘助  
栗田東平  
鬼頭平兵衛  
三浦源介  
水谷善七

美濃大垣  
同 笠松  
同 伊勢津  
同 松坂  
同 山田  
同 三州岡崎  
同 豐橋  
遠州濱松  
同 掛川  
同 見附  
同 駿州藤枝  
同 静岡  
同 沼津

岡安慶助  
玉井忠造  
篠田伊十郎  
本屋嘉助  
藤原長平  
伊藤善太郎  
伊藤文吉  
高須又八  
落合清七  
白木健二郎  
大塚好五郎  
古澤良作  
遠州屋安兵衛  
佐藤俊平  
廣瀨市藏  
吉成壽三郎  
小松浦吉

伊豆三嶋  
相州小田原  
同 伊勢原  
甲州山梨  
武州横濱  
同 深谷  
同 同 同 同 同  
同 鴻巢  
同 熊谷  
同 浦和  
同 房州北條  
上總茂原  
同 東金  
同 下總千葉  
同 野田  
同 佐原

關谷利右門  
米屋忠兵衛  
山田淺治郎  
内藤傳右門  
吉川伊兵衛  
酒井省吾  
小野脩三  
長嶋爲一郎  
松枝悦三郎  
藤屋源作  
山下安民  
松田屋清兵衛  
丸屋茂兵衛  
多田屋嘉左門  
藤屋錠次郎  
茂木林藏  
正文堂利兵衛

下總水海道  
常陸水戸  
同 土浦  
野州宇都宮  
同 榎木  
上州前橋  
同 高崎  
同 桐生  
同 伊勢崎  
同 館林  
同 岩代福島  
同 若松  
同 陸前仙臺  
同 石巻  
渡嶋箱館

江戸屋伊左門  
北澤安次郎  
寺田新助  
田野邊忠兵衛  
小林八郎  
遠藤善平  
文心堂  
煥平堂  
竹内藤吉  
川木屋平吉  
糸屋太吉  
齊藤彦太郎  
森 萬助  
齊藤八四郎  
伊勢安右門  
山口啓之助  
魁文社



陸奥青森 同 弘前 同 八戸 同 羽後秋田 羽前山形 同 谷地 同 鶴岡 同 上山 信州長野 同 上田 同 小諸 同

池田吉助 平井客次郎 武田莊七 玉田平治郎 浦山太郎兵衛 本間金之助 市村五郎兵衛 荒井多四郎 八文字屋太左門 田宮五郎 地主文藏 萬屋利七 西澤喜太郎 池田政教 小山九郎兵衛 相場七左門 釜屋儀助

信州松本 越後長岡 同 小千谷 同 高田 同 越中富山 同 高岡 同 福光 同 加州金澤 同 同 同 同 同 大聖寺

高見屋甚左門 上田屋治八 鳥屋十郎 中村作平 小林屋定吉 室直三郎 本田勝太郎 大橋甚吾 土井宇三郎 車野義三郎 水野清左門 清水清左門 中村喜平 近田善平 池田善平 近八右門 深城伊三郎

